

くろい歯科クリニック 100年の歴史

～子は祖を以て尊しとなし、祖は子を以て亦尊しとなす～

元号年数西曆	享保二十一年	保元五年	文和三年	寛保三年	延享四年	享和四年	寛政三年	天明八年	天保九年	安永九年	和明八年	曆宝十三年	延寛三年	享和四年	保元三年	文和五年	元保五年	享保二十一年
	1771	1736	1744	1744	1744	1744	1778	1781	1772	1772	1764	1751	1748	1744	1741	1736	1716	1716
	1771	1736	1744	1744	1744	1744	1778	1781	1772	1772	1764	1751	1748	1744	1741	1736	1716	1716

黒井家の系統について

*平成5年(1993)、晃一 七回忌に
あたり、ワープロ化したものである。信

「子は祖を以て尊しとなし、祖は子を以て亦尊しとなす」
父賢治が、大正九年に玉置英隆氏より黒井家についての資料を得て以来、その遺業を継続してここにその大要をまとめた。以て祖に感謝し、子孫の安泰を願ってやまない。

昭和五十五年二月十日 (1980)

黒井晃一 謹書
と志

「新三・国払い」誌より、及び小川捨松氏の代々の申し送り
「文政十二年(1829)兵造景義死亡当時の世情」

徳川家斉の時代でシーボルトが長崎で医を施していたが、持ち出し禁止の地図を入手したことでスパイとして国外追放された。1830徳川家斉が藩政改革、尊王攘夷、文武の奨励を行った。1832には江戸時代三大飢饉の一つ天保の大飢饉にて民は食に困り、都市集中心が始まり百姓一揆などが起こる。鞆方では、大庄屋・医者・和尚・肝煎・組頭等の有力者や役人たちが威張り、勢力争いが絶えず、年に三十九回公然飲食が行われた。村人、若者は年々芝居・博打益財・奢侈に流れ、村財産より借金をして生活をした。当時の一両は米二俵半、利息は一割から一割五分、村財産六九〇両の中四五両程を貸し付け金として、その利息をもって村役人の飲食費に費入されていた。山川源蔵は代々庄屋を務めた家柄で、黒井兵造はその顧問格を務め山川が代官所に行くときはその後見人として随行したと言われている。彼はまた博学で村民に書を教えていたという。山川源蔵は文政三年勢力争いで謀職罷免させられた後は、野にあって苦しい目にあい、文政十一年(1828)新三なるものが告訴を行い、所謂鞆方誌に残る「新三国払い」となった。新三は山田中之郷(宮町)に送られ翌年恨死した。山川源三は新三の後援者であったので、兵造等丹波から移住した七人組は厳じき世評を受けたらしい。七人組の中實力のあった黒井氏だけは鞆方を離れ、六人衆は鞆方に残った。天保の大飢饉がその後此の地をも襲い、村民は「これは新三・国払いのたたりである」と恐れ新三の供養を行って今に及んでいる。黒井氏が鞆方を離れる時七人組の一、小川家に住家を提供するに際して、墓碑の供養を依頼して行ったので、小川家ではその後代々比の碑は大切に守れと伝えられて来たといわれて今に及んでいると、小川家の分家である小川捨松氏が昭和三十九年原を訪れ、それらの供養につき要望があった。三代黒井京輔夫婦が現存されていて本山氏の世話、小川家本家・分家の方に世話になり、捷鳳寺にて念仏・墓参供養を行った。

(参列者)

黒井有賢・晃一・くにゑ、高橋明子・賢、小川 (本家) ・小川捨松、東山正三代の諸氏であった。兵造墓碑は認められないと小川氏は著している。

(麻加江黒井氏を訪問して 昭和五十四年十月二十一日(日))

長年の願望であった麻加江黒井氏を訪ねた。本家黒井正一氏、分家黒井寅三氏であって、本家遠祖について様々尋ねるところがあった。麻加江の先祖とされている人は又伯であり正眼智微居士 文久二年九月二十一日 であるとのことであることからして、兵造景義も麻加江に移住され、又伯の次男が麻加江を相続されて現在に至るのではなからうかと推察された又鞆方のことは伝わっておらず十津川玉置との交流が主であったため、十津川から移住されたものと考えておられた。

まかえ ぐずか
*麻加江：度会郡の宮川上流、国東山南西。相可南方約七Km。

黒井家初代

遠

鶺鴒

初代 黒井又玄正義 (医)

ゆうげん

丹波の国、赤井氏浪人にして志摩鶺鴒方に
七人組にて移住、医を業とする。

又玄大禪定門 享保十五・九・二十一佛 (1730)

二代 黒井喜兵衛正義 (医) 又玄の子

透翁禪関信士 宝曆七・八・二十二佛 (1757)

三代 黒井京輔直義 (医) 喜兵衛の子

密道無外信士 (禪門) 享和三・正・二十八佛 (1803)

廊然猶存然尼 (妻)

四代 黒井兵造景義 (医) 京輔の子

正眼知徹居士 (禪門) 文政十二・十二・四佛 (1829)

理性包含禪尼 (妻) 文化十一・三・二十五佛 (1814)

ゆうはく

五代 黒井又伯満義 (医) 伊勢山田西河原大塚半四郎の子にして
兵造の子の婿となる。四十才頃鶺鴒方を離れ

究意成満居士 男子のみを連れ度会郡麻加江に居住す。
文久二・九・二十二佛 (1862) 女子は母につき志摩に残る。

六代 黒井伯英忠義 (医) 又伯の長男にして二弟二女の兄弟あり。江
(玉置と改姓) にて医を修め甲斐国甲府近在にて医業をな

* 伯豊儀道居士 妻タカを迎え伊勢に帰りて後十津川に移住
して玉置と改姓す。
明治三・三・二十二佛 (1870)

①有賢 (長男) 黒井家七代に (中興の祖)

②幸吉 (咬潔孫子) (早世) 明治四・六・四佛 (1871)

伯英 ③玉置調賢 (医) 英隆 (医) 正英

④方作 (東) 奈良県吉野郡十津川村 和歌山県東牟婁郡
大字玉置川二五 高田村字高田 (現新宮市)

⑤玉置円吉

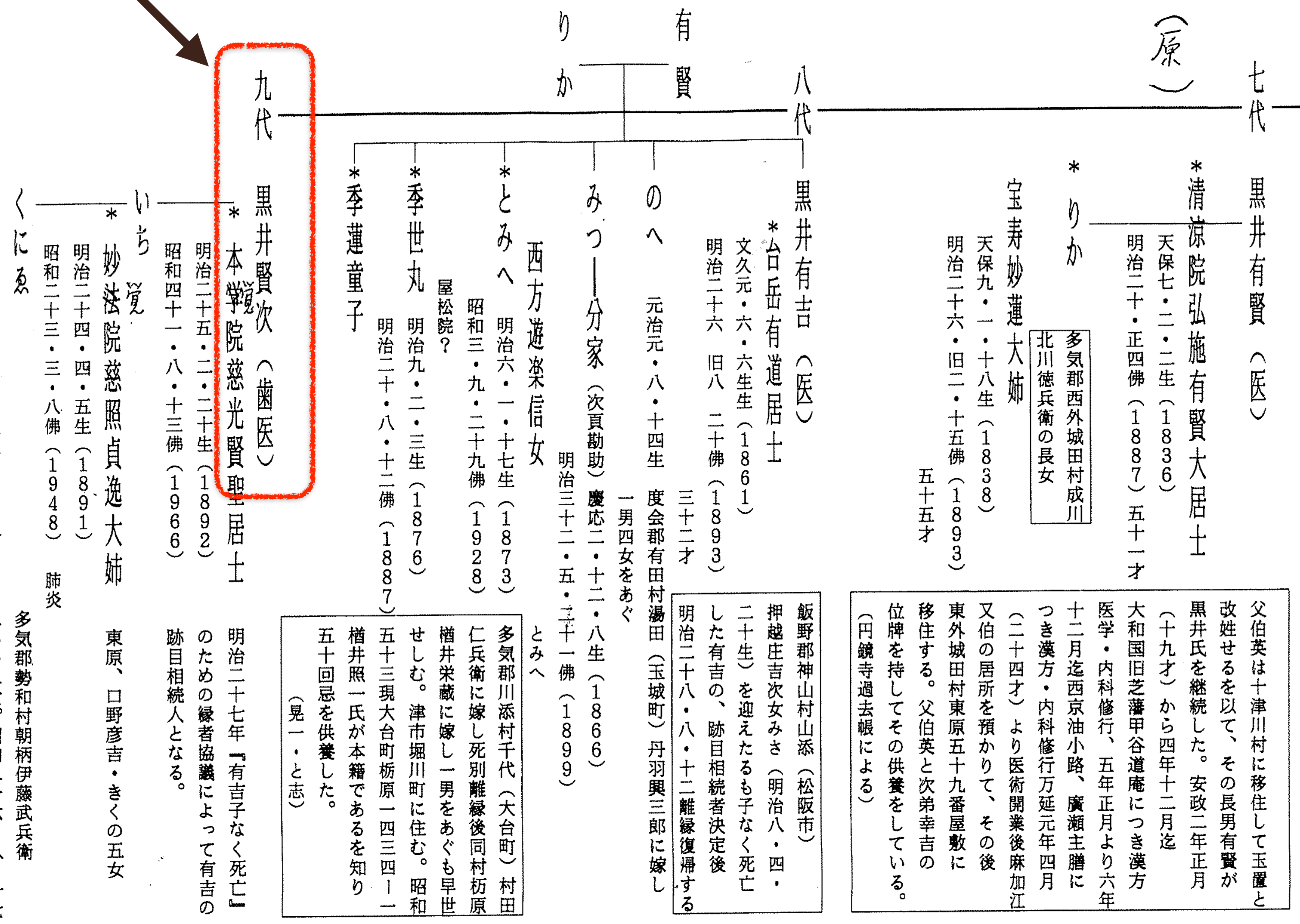
祖

三重県志摩鶺鴒方で代々医業を生業としていた。

明治25年 (1892年) 生まれ 当時は開業が早いので30歳として1922年開業

曾祖父 くろい歯科初代

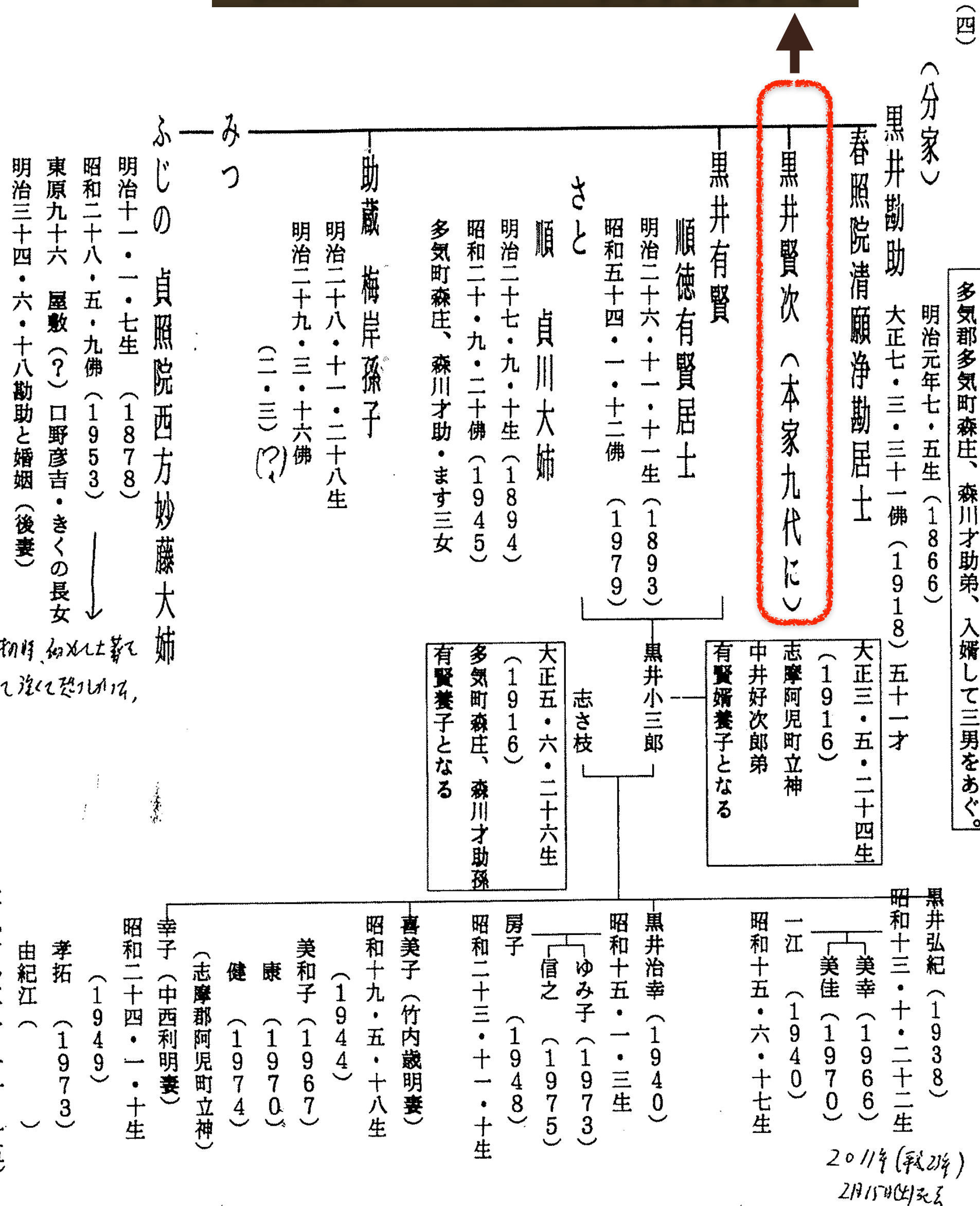
「*印の方々を謹んで合祀、先祖累代の碑とした。」



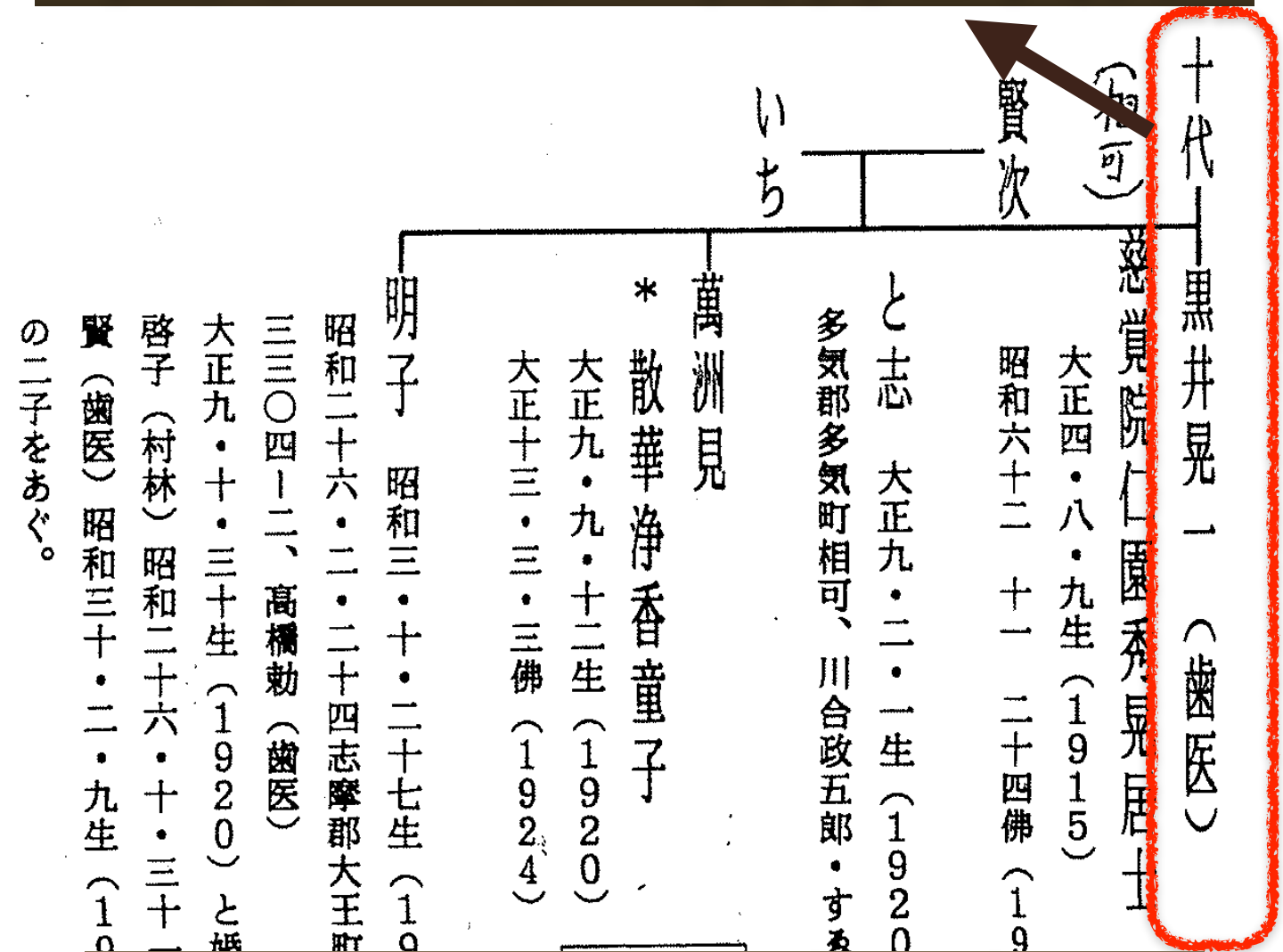
飯野郡神山村山添(松阪市) 押越庄吉次女みさ(明治八・四・二十生)を迎えたるも子なく死亡した有吉の、跡目相続者決定後 明治二十八・八・十二離縁復婚する

多気郡川添村千代(大台町) 村田仁兵衛に嫁し死別離縁後同村枋原 榎井栄蔵に嫁し一男をめぐも早世せしむ。津市堀川町に住む。昭和五十三現大台町枋原一四三四一 榎井照一氏が本籍であるを知り 五十回忌を供養した。(晃一・と志)

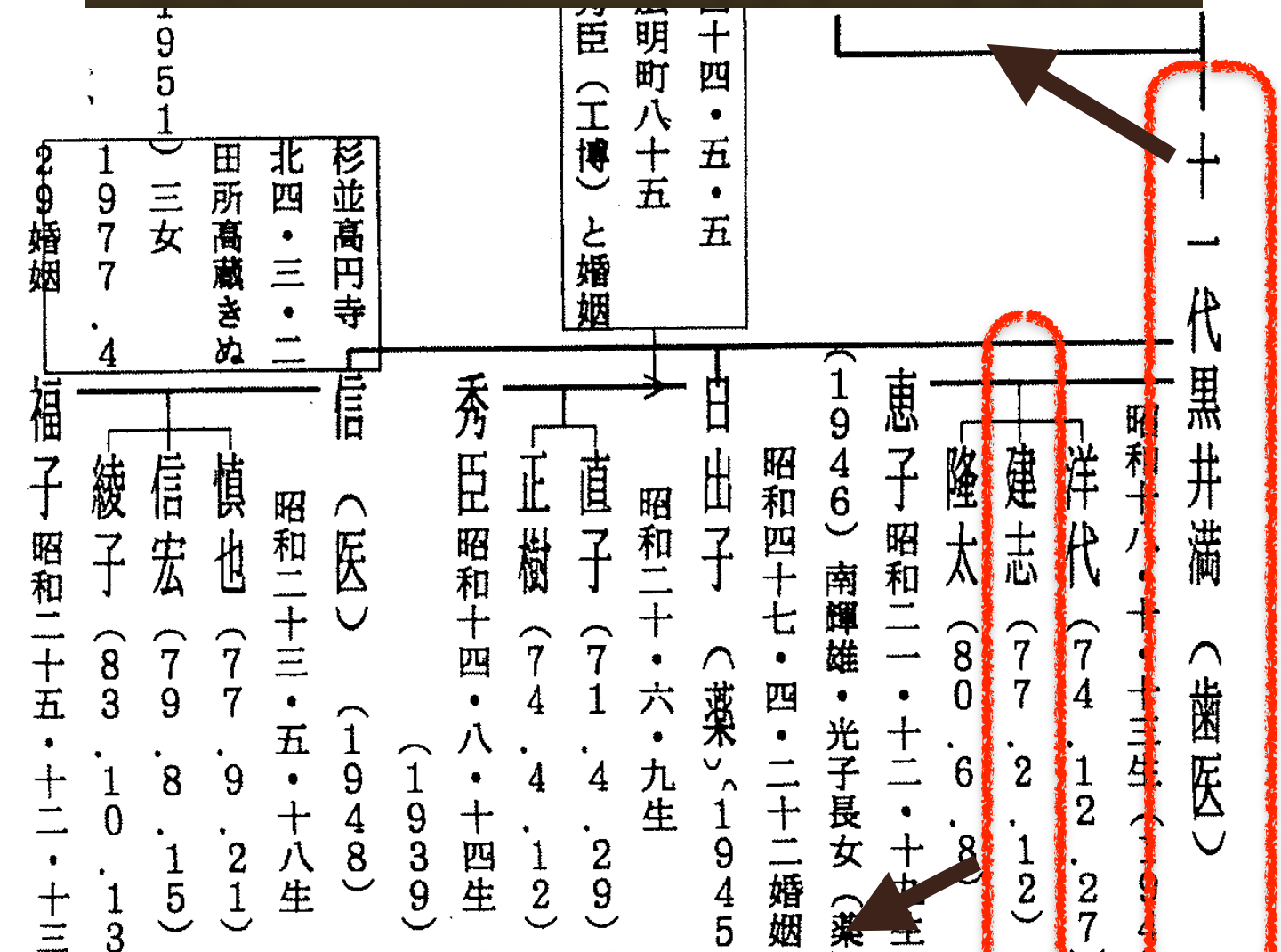
祖父 くろい歯科初代



祖父 くろい歯科2代目



父 くろい歯科3代目



私 くろい歯科4代目

くろい歯科クリニックは明治25年 (1892年) 生まれの初代曾祖父から約100年!

- ・ これまで歴史を築いてこられた祖先達に心から感謝し
- ・ これまで以上の発展に貢献できるように精進致します。

第十二代 黒井建志